

町会連合会での防災防犯活動

Disaster prevention and crime prevention activities in the association
of neighborhood alliance society

北浦 勝

(公益社団法人) 金沢職人大学校 理事長 (兼) 学校長

Masaru Kitaura

Chief Director and Principal, Kanazawa Institute of Traditional Crafts

Abstract

Since I did a lot of small things and removed road snow during the daytime in winter, after retiring from a university, many neighbors knew that I was free. In next March, when an officer of the neighborhood asked me to become a group leader, I undertook the leader at once because the leader is a work of taking turns, without much thought. The next day, he asked me again to become a chairperson of the neighborhood association. Because I undertook the leader too plainly, he seemed to think that I would undertake the chairperson. I became a director of a block that bundles up around eight neighborhood associations after two years, and after two years more, I was recommended to become a vice-chairperson of association of neighborhood alliance society that was consisted of 44 neighborhood associations of A elementary school area. I thought that somebody must work as the person in charge and decided to undertake it. As a result, I thought I was able to make my debut smoothly and luckily to the association of neighborhood alliance society. It was said that breeding of the local community was extremely important for the disaster prevention, and I also believed so. Therefore I decided to take care of disaster prevention in association of neighborhood alliance society, taking advantage of this chance. However, since I realized that I could not readily breed the community so easy as I thought, I wrote down the whole story note that may be useful for the person to be followed by.

1. はじめに

8年前に永年勤めた大学を定年退職した。それまでは忙しく、自分としては十分働いたので、しばらく休養しながら次の生き甲斐をみつけようと考えていた。もっとも大学から完全に離れたのではなく、博士課程の学生を残していたので、週に1回その指導に通ったり、同時期に定年退職した仲間と春から秋に1週間に1回2時間程度、大学内の草刈りをした。また定年退職前の数年間は勤務大学の留学生センターの手伝いをしていたことから、韓国から留学して来る数名の学生に教養課程で勉強する数学の予習の手伝いをしたりしていた。と言っても、わたしが永年使ってきた数学は線形一次微分方程式など数学のごくごく一部であり、線形代数や微分積分など他の大部分は昔、教養部で教わった内容を思い出しながら自分も勉強した。数学がいかに奥深い学問であるかを初めて知った。

金沢は雪国であるから、昔は雪が100cm近く積もったが、今では20cmも積もれば大雪で、年寄りには歩きにくいと感じる。退職後にこまごましたことをやっているとは言え、現役とは違い時間がたっぷりあり、積雪時には昼間から雪かきをしたので、暇であることがいっぺんにばれてしまった。翌年の3月、町会の役員から班長をするようにと依頼され、班長なら回り持ちだし、と軽く引き受けたら、翌日町会長をするようにと依頼された。あまりにあっさりと班長を引き受けたので、これなら町会長を、となったらしい。2年間でお役目ごめんと期待していたら、8つくらいの町会を束ねるブロックの理事になり、その後さらに町会連合会(小学校通学域の44町会から成る組織)の副会長に推薦された。ま、誰かがしなければいけないことだと思い返し

たので、公園デビューではなく町会デビューはスムーズに進行した。現役時代には防災のためには地域コミュニティの醸成が極めて大切であると言われ、わたしもそのように考えていたので、これを機会に町会連合会の防災に取り組むかと思った。しかしなかなかそう簡単にコミュニティの醸成はできないと思い知らされたので、その顛末記を記し、次に続く人への参考となるかもしれない駄文を綴る次第である。

2. A町会連合会の紹介

表1にわたしの所属するA町会連合会（A町連）の人口などの基本データを示す。金沢市の繁華街から比較的近く、商店街もあるが、大部分は住宅街である。A町連はこの数十年間に地震や洪水など強い自然災害に襲われたことがない。ただ一つの例外が雪である。金沢の最大積雪深は昭和38年の181cmだそうだが、昭和56年や昭和59年冬も大雪であったものの、その後大雪は減った。しかしA町連は高齢町連で、高齢化率が25%と4人に1人が65歳以上、金沢市全体の23.9%よりも高い。数十cm程度の積雪でも難儀を感じる高齢者が増えた。元気な高齢者は多いが、災害への抵抗力は確実に低下している。自分の家の前の雪は自分で

表-1 A町会連合会の基本データ（平成27年12月現在）

	小学校数	町会数	世帯数	人口（人）	65歳以上	高齢化率
金沢市	62	1,358	202,155	454,468	108,617(人)	23.90%
A町連	—	44	3,899	9,250	2,335(人)	25%
A町連/金沢市	—	3.20%	1.90%	2.00%	2.15%	1.05倍

除けるのがマナーであったが、それもできにくくなった年寄りが増えてきた。これまでは雪は災害ではなく、冬の風物詩程度にしか捉えていなかったが、だんだんそのような悠長なことを言っている場合ではなくなってきた。そこでA町連も一昨年初めて雪かきボランティアと協約を結んだ。雪かきボランティアは金沢市が立ち上げた事業で、「雪かきボランティアをします」と言って、市に登録している学生達から成る。もっともわたしの町連は何とか耐え、未だ出動の要請をしたことはない。

3. 町連会長の仕事

わたしは町連に3人いる副会長の一人である。表-2に示すように町連の関係する事業や関係事項はもの凄く多く、1年中ほぼ毎週、多忙なときは毎日仕事がある。町連の仕事（表-2の事業名のこと）はもとより、町連に関わるが、厳密に言えば町連以外の仕事と思われることもしなければならない（表-2の関係事項）。関係事項を大別すると5つの仕事から成る。(1)小学校や中学校の入学式や卒業式、長寿を祝う会、成人式など、地元の名士としての仕事や、(2)地区の公民館や社会福祉協議会、交番連絡協議会、重伝建造物防災セミナーなど地区の関係団体に委員として参加する仕事、(3)市の健康を守る市民の会や公民館指導者研修会、日赤県支部総会など町連を代表して参加する仕事、(4)町連の上部団体である金沢市町会連合会の公的な仕事、及び(5)町連関係者の祝い事やご不幸などへの参加である。

会長は現役を退いていて、この仕事に専念しているが、全部はとてもカバーできない。それを補佐し、仕事の一部を引き受けるのが副会長である。副会長には昼間は現役で働いている人もいるから、会長は時と場所を考慮して町連の仕事を副会長に割り当てている。表-2の事業名に示す仕事の準備や打ち合わせがまた沢山ある。社会体育大会や納涼盆踊りの準備が特に大変であるが、わたしはいくつかの役に加えて、納涼盆踊りを引き受け（てしまっ）たので、そのことについて記したい。

表-2 平成25年度 A 町会連合会事業実施内容(1)

月	日	事業名	会場	参加人数	関係事項
4	4	会計監査	C 公民館	5名	A 小学校入学式 (8日) B 中学校入学式 (〃)
	8	三役会	A サロン (=旧消防署)	5名	健康づくりフェア (13日) D 警察署青色パトカー出発式 (14日)
	16	青色パトカー 防犯パトロール	A 町連一円	2名	A 地区社会福祉協議会総会 (19日) 市町会連合会理事会 (25日)
5	8	三役会	A サロン	5名	C 公民館運営審議会 (14日) A サロン運営委員会 (15日)
	12	定期総会	C 公民館	62名	C 公民館委員会 (17日) 学校ボランティア研修会 (20日)
	〃	春の一斉美化清掃	町連一円		市祭たいこみこし行列コンテスト (26日) 市町会連合会総会 (28日)
	18	理事・ブロック長会議	A サロン	14名	市政連絡会 (30日) 市祭協賛たいこみこし行列 (31日)
6	2~3	町会長・各種団体 代表者研修・懇談会	温泉	47名	市D 防犯協会総会 (6日) A まちづくり協議会総会 (8日)
	6	理事・ブロック長会議	A サロン	7名	市町会連合会理事会 (18日)
	7	A いきいき健康教室 開講 (全7回実施)	C 公民館	29名	A 交番連絡協議会 (19日) C 公民館指導者研修会 (22日~23日)
	9	三役会	A サロン	5名	C 地区青少年健全育成協議会 (27日)
7	17	理事・ブロック長会議	A サロン	13名	健康を守る市民の会 (2日)
	27	青色パトカー 防犯パトロール	A 町連一円	2名	D 警察署防犯キャンペーン会議 (19日) 日赤県支部総会 (22日)
	〃	防犯パトロール (各種団体合同)	〃	32名	県町会区長会総会 (29日)
8	3	A 校下納涼踊り	A 小学校 グラウンド	1,500名	市町会連合会理事会 (8日)
	13	三役会	A サロン	5名	C 公民館研修会 (25日)
	17	青色パトカー 防犯パトロール	A 町連一円	2名	A 交番連絡協議会 (28日)
	〃	防犯パトロール (各種団体合同)	〃	35名	
	18	防災会議 (町会長・ 各種団体)	消防署	75名	

表-2 平成25年度 A 町会連合会事業実施内容(2)

月	日	事業名	会場	参加人数	関係事項
8	23	青色パトカー 防犯パトロール	A 町連一円	2名	
	24	防犯パトロール (各種団体合同)	〃	34名	
9	8	防災訓練 (ブロック毎に実施)	〃	約 600名	A 地区長寿を祝う会 (9日) C 公民館三役会 (12日) A 小学校運動会 (21日)
	11	三役・ブロック長会議	A サロン	6名	近隣の小学校区の社会体育大会 (22日) 市町会連合会理事会 (27日) 健康を守る市民の会 (28日)
10	6	A 校下社会体育大会	A 小学校 グラウンド	約 1,200名	市町会連合会中部地区大会 (2日) C 地区青少年健全育成協議会 (8日)
	12	A 校下安全パトロール 情報交換会	A サロン	21名	D 警察署地域安全会議 (19日) 市町会連合会大会 (14日) 県防犯研修会 (17日)
	20	秋の一斉美化清掃	A 町連一円		C 地区戦没者慰霊法要 (18日) C 公民館文化祭 (27日～28日)
	28	三役会	A サロン	5名	市町会連合会研修会 (29日・30日)
11	18	三役会	A サロン	5名	市マラソン代表者会議 (1日) C 地区少年野球大会 (3日) 市文化・産業功労賞授賞式 (3日) 市町会連合会理事会 (5日)
	20	理事・ブロック長会議	A サロン	15名	市民マラソン大会 (10日) C 公民館三役会 (12日) C 公民館壽学園閉講式文化祭 (21日) C 地区青少年健全育成協議会 (26日) 市婦人会大会 (30日)
12	19	青色パトカー 防犯パトロール	校下一円	2名	D 警察署安全パトロール出発式 (10日)
	20	三役会	A サロン	5名	市町会連合会理事会 (11日)
1	26	A 校下新年会	レストラン	74名	C 公民館新年互礼会 (5日) D 警察署始業点検初式 (10日) C 公民館成人式 (12日) B 中学校下婦人会新年会 (17日)

表-2 平成25年度 A 町会連合会事業実施内容(3)

月	日	事業名	会場	参加人数	関係事項
1					市町会連合会理事会（21日） 防災士スキルアップ研修会（26日）
2	8	三役会	A サロン	5名	重伝建防災セミナー（6日） B 中学校立志式（6日） C 公民館三役会（7日） 社協・民児協研修会（7日） 市町会連合会理事会（10日） 市公民館大会（16日） 市政懇談会（24日） A まちづくり協議会（26日） 市町会連合会委員会（28日）
3	17	三役会	A サロン	5名	C 公民館運営審議会（11日） B 中学校卒業式（13日） A 小学校卒業式（19日） 健康を守る市民の会（26日） C 公民館三役会（27日） 市町会連合会理事会（27日） E 社会福祉施設理事会（28日）

4. 納涼盆踊りの責任者

盆踊りは8月の初めにあるが、その準備は4月から始まる。町連だけでは開催できる力量がないので、婦人会や子供を育成する会、民生委員・児童委員協議会、小学校 PTA、街頭交通推進隊、社会福祉協議会、公民館などの協力が要る。そのために早くに日を決めて会場（小学校の運動場）を確保したり、各種団体の行事日程と重ならないようにする必要がある。その後は踊りの練習の日程を決めたり、踊りを指導していただくお師匠さんに依頼したり、子供の練習日を決めたり、アイスキャンディやくじ引きの商品を買ったり、提灯や豆絞りなど場の雰囲気盛り上げる品をもらうために、地元新聞社に後援の依頼をする等、いろいろある。

当日の1週間前から当日までにすることを時系列的に記すと、表-3のようであり、盆踊りの立て看板を注文し、校門に立てかけることから始まり、踊りの練習、舞台の組み立ての業者への依頼、飾り付けなど、枚挙にいとまがない。踊りの翌朝に、町会長らと会場を清掃しておわり、ではなく、業者への支払いの依頼や関係者へのお礼など、未だこまごまとした仕事が続く。

とにかくたくさんの方が同時並行的にあり、お互いにモノの貸し借りや言葉での伝達など、コミュニケーションを取らないと物事が何も始まらないことから、これでお互いに顔見知りとなり、納涼盆踊りおよびその準備はコミュニティの醸成に少しは役立った、と思いたい。

表-3 納涼盆踊り 1週間前から当日までにすること

日	すること
1週間前	立て看板を校門に立てる。 小学校のサマースクールで子供達に盆踊りの練習をしてもらう（3日間、毎日1時間）
2日前	踊りの練習（2日間、毎回2時間）。ゆかたの貸し出し。
前日	やぐら（舞台）の組み立て（業者）
当日朝	舞台等の電飾（業者）、会場準備（ライン引き、舞台飾り付け、 テント組み立て、机椅子等配置）
当日夕	筆耕係（掲示板に貼るために、寄付者の名前を墨で書く。）、受付係 （来賓者と一般の参加者）、掲示係、ライン係、巡視係（清掃も）、交通整理係 駐輪場配置係、飲み物販売係、食べ物販売係、抽選会係
踊り始	放送係
休憩	アイスクャンディ配布、抽選会実施。
踊り終	後かたづけ
翌朝	会場清掃

5. 防災・防犯に係る仕事

9月以降に防災訓練を実施しているが、9月初めに防災の基本的な話を市の危機管理係とわたしです。危機管理係の方は防災一般の話を、すなわち大地震の教訓、地震発生から3日目くらいまでに注意すべきこと、日頃の備え、地震が起きたらどうするか、ライフラインの知識、火災に備えて、応急手当などであり、他に石川県には志賀原発があるから、万一の場合の避難等について説明する。

わたしは我々の町連の情報を話す（図-1、順番は左上から右へ）。まず石川県にも影響を及ぼした昭和23年の福井地震で梁の下敷きになった右腕を斧で切った方の話から始めて、耐震性能が十分でない家は傾いたり崩壊したりし、避難所で何ヶ月も過ごさなければならないことを言う。続いて、我々の町連から数百mのところ森本・富樫断層が走っていて、阪神・淡路大震災をもたらした地震のマグニチュードより少し小さい7.2の地震がこれから30年以内に2%から8%の確率で発生する可能性があることを説明する。確かにこの値は一見小さそうに見える。天気予報で雨の確率が8%であれば傘を持たないかもしれないが、阪神・淡路大震災をもたらした断層も30年前はこれと同じ値であったことを言い、危険が決して小さくないことを力説する。最後の方では、この町連に住んでいるブロック毎のコミュニティ防災士の名前を言う。そしてこんな訓練方法があると例を示す。最も簡単で、それなりに効果のある楽な訓練はシェイクアウトであり、どの場所においても、TPO（時と場所と場合）に応じて安全な場所を探し、安全な姿勢を取るように話す。さらにわれわれの町連の指定避難場所（学校、公民館、体育館、公園、広場）と拠点避難場所（A小学校）を具体的に地図を示して説明する。

実際の訓練では、町連を5つのブロックに分け、ブロック毎に防災訓練を実施しているが、内容はほぼ同様である。9月以降に防災倉庫の置いてある公園に集まり、氏名の点呼（あるいは紙に名前を書いてもらう）、町名の書いてある立て札を先頭に一列に並んでもらう、倉庫内の物品の確認、テントを立てる、アルファー米を炊く、家庭用災害対策マニュアル「防災かなざわ」を配布し、その要点を説明する。婦人会が用意してくださったお漬け物と炊きあがったアルファー米を弁当に入れて食べてもらう。飲み物もわたす。質問等を聞き、

泉野校下の防災会議

泉野校下町会連合会
泉野校下自主防災会

平成27年8月23日
副会長(防災担当)

5:54(100) 5分間

昭和23(1948)年6月28日17時13分 分福井地震震源の丸岡町付近(M7.1)



平成7(1995)年1月17日5時46分 阪神・淡路大震災(M7.3)

「地球の終わりに近いかな」と思うほどの激しい揺れ。
大地震直後の10時間くらいは、消防車も救急車も救助隊も来ない。
27,000人(77%)が近隣住民によって助けられた。





昭和36年犀川水害



犀川大橋付近
桜橋流失

昭和38年豪雪



震災

- 寛政11(1799)寛政金沢地震。金沢の直下地震。
- 安政5(1858)飛騨地震。金沢で城の石垣破壊、全潰、半潰、破壊合わせて114戸
- 明治24(1891)家屋全壊25、金沢震度4
- 明治25(1892)能登西南部、金沢震度4
- 昭和23(1923)福井地震、金沢震度4

寛政11(1799)年寛政金沢地震

- 金沢の直下地震
- 全棟家屋 26棟、死者15人
- 城の石垣も破壊
- 田井筋鶴岡谷別して3尺余も地割れ、その中より、吹水一丈余も空へ上り
- 犀川と浅野川に挟まれた地域で甚だしく、野田卯辰筋は特に著しい。

森本・富樫断層



金沢直下地震→2~8%へ



金沢直下地震の震度分布





防災研修の目的

- 大規模災害・生命、身体、財産を失う。
- 自助・自分(家族)の命は自分(家族)で守る。
- 共助・自主防災組織が互いに協力しながら防災活動に取り組む。
- 地域の実情に即した研修をし、地域の防災力向上を図る。
- 公助・国・県・市、消防機関などの公助に結び付ける。
- ボランティア

研修の種別

- 防災資器材の取り扱い(点検)研修
- 炊き出し(給食・給水)研修
- シェイクアウト*1
- 各種まちなか研修*2
- 情報収集・伝達研修*3
- 図上研修(地域防災マップの作成)*4
- 救出・救護研修
- 避難所運営研修

研修の種別

- 防災資器材の取り扱い(点検)研修
- 炊き出し(給食・給水)研修
- シェイクアウト*1
- 各種まちなか研修*2
- 情報収集・伝達研修*3
- 図上研修(地域防災マップの作成)*4
- 救出・救護研修
- 避難所運営研修

*1 シェイクアウト

- 日時 平成27年9月13日(日) 9時から1分間(案)
- 泉野校下で実施する防災研修の想定
- 森本・富樫断層が動き、M7.2の地震が発生、泉野地区で震度6強の強揺れ。
- 耐震性の低い木造家屋が傾斜、倒壊。火災や道路の損壊、負傷者も発生、電気、ガス、水道等のライフラインの遮断。

室内にいる時



*2 各種まちなか研修

- a 災害発生後、自宅の点検を終え、近隣に声を掛けて町会等の1次避難場所へ集団で避難する研修(安否確認の途中)
- b 消火器やバケツリレーによって初期消火を実施する研修

泉野校下の1次避難場所、拠点避難場所など

- 1次避難場所→各ブロックの防災倉庫のある広場
- 市指定拠点避難場所→泉野小学校
- 市指定避難場所: 泉丘高校、二水高校、市総合体育館、城南市民体育館、泉野出町第一公園、同第二児童公園
- 避難場所は運動場などの広場、避難所は建物のあるところ(泉野小学校などは避難所でもある)

*3 情報収集・伝達研修

- 安否確認を行い、集計し、自主防災組織本部(町会連合会)へ報告する研修
- 各家→班長→町会→自主防災組織本部(〇〇家(家族5名): 父母自宅、兄1名市内勤務中確認、妹1名市内勤務未確認、次男わたしが自宅、以上)

*4 図上研修

- (研修当日までに防災まち歩きを実施し)
- 地図を利用して住民ならではの様々な(今と昔の)情報を自由に書き込み、オリジナルの防災マップを作成
- これをベースに災害が発生した場合、どのような行動をとるのか検証する研修

研修の流れ

- 点検評価→
- 是正・改善→
- 次回研修(改善した内容で実施計画を立て、次回の研修に向けて準備)。
- 継続的な研修の実施が必要。

防災士 全国で95,190人

- 第1ブロック 渡部為彦
- 第2ブロック 尾有武嗣
- 第3ブロック 笠置研一
- 第4ブロック 橋本幸子
- 第5ブロック 伊藤昭一、横井伸一、北浦 勝

(敬称略)

防災研修

- 防災倉庫点検、備品のチェック
- アルファー米(各ブロック100)の炊き出し
- テントの設置
- 冊子(各ブロック100)配布、説明、情報交換
- 各ブロックに防災士が1名入ります。

おわりに

- ご清聴、ありがとうございました。
- 先ず自助 そして 共助
- 天災は忘れた頃にやってくる。
- 備えあれば憂いなし。
- 継続は力なり。
- 多くの資料を参考にしました。感謝。

図-1 町連の防災説明会で使ったパワーポイント

後かたづけをしておわり。なかなかそれ以上には行けない。「もっと実践的なことをやれ」という声もあるので、そういう人を集めて、次回以降は一步先に進めたいと考えている。しかしここで顔なじみになることも大切な目的の一つである。結果を持ち寄り、町連でまとめ、来年以降の参考にする。

県の防災訓練として今年度は県民一斉防災訓練（シェイクアウトいしかわ）があった。市は毎年いくつかの小学校区を選んで市民防災訓練を実施している。と言っても最近では市がすべてお膳立てをするのではなく、自主防災組織会長および町連の役員を中心に防災士が協力して訓練の企画運営を行う。図上訓練や各種まちなか訓練、避難所運営訓練などが行われている。

人災である交通事故から子供たちを守る見守り隊も仕事の一つである。現在、多くの小学校で朝夕の登下校時に黄色い旗を持った大人が通学路に立って、子供達の安全を見守っている。京都の亀岡で4年ほど前に、小学校へ登校中の児童と引率の保護者の列に軽自動車が入り込み、計10人がはねられて3人が死亡、7人が重軽傷を負った。この悲しい事故から我々の小学校の児童を守ろうと2年半前の2学期から町連の交通の危ない場所で黄色い旗を持ち交通整理をしている。しかし今の時点では活動している人は20人ほどで、年寄りの男性が多く、朝する人は多いが夕方少ない。年に1回懇親会や検討会があり、また小学校の全校朝礼で児童や先生方から感謝会を催してもらっている。

同じく交通事故や犯罪から子供を守ろうとする運動の一つに、青色パトロールがある。青色パトロールとは赤色灯を回して巡回する警察のパトカーとは異なり、許可を得た人が青色灯を回して巡回するパトロールのことである。年に2回ほど車を借り、町連を廻って交通安全や火事予防、早く家に帰るように等のメッセージの録音されているテープを回して、ゆっくり走って廻る。

6. 防災士の資格取得

高齢社会で防災への体力が落ちていることや、近年自然災害をもたらす力が増していることから、国や自治体は防災に力を入れている。災害対応に自助、共助、公助という考えがあるが、その内の特に共助を補強するために、すなわち災害時、あるいは災害前に地域の核となる人材を養成する、防災士なる資格を取得するように勧めている。防災士は民間資格であるが、既に全国で10万人以上が資格を取得している。石川県は1町会に一人となる4,000人、内女性1割以上を目標としており、昨（平成27）年までに3,788人が取得している。近いうちに目標を突破しそうである。もっともここで記した数字は自治体が受講料を出して養成した地域コミュニティ防災士の数である。このほかに企業などから要請されて社員が取得する場合や、消防吏員、消防団員、日赤救急員など職務上の必要性から取得する場合、個人が必要と感じて取得する場合などがある。

現役時代には防災で飯を食ってきたので、防災は知っている積もりでいたが、町連の会長から、「頭の防災でなく身体で覚える防災が大切」と言われ、2日間の研修を受けた。研修の2カ月ほど前に厚さ1cm5mmほどの「防災士教本」（310ページもある）と「履修確認レポート」、「防災士試験対策ブック」が送られてくる。時間を見つけて、厚さ1cm5mmほどの「防災士教本」を予習する。それを読むと、「履修確認レポート」の質問に容易に解答できるので、解答をシートに記入し、研修当日の朝一番に提出する。成績が悪いと、研修の間に呼び出され、添削を受ける。「防災士教本」の要約が「防災士試験対策ブック」にまとめられており、練習問題と解答・解説もついているから、これも予習する必要がある。このように、研修を受ける前にかんがいのレベルのことを学べるようになっていく。ということは、時間が結構取られるということでもある。また研修までに、消防署等で普通救命講習を受け、AEDの使い方等を聞き、訓練する。その後、日をあらためて石川県自主防災組織リーダー育成講座と銘打った2日間の研修に参加する（表-4）。内容は災害ボランティアや危機管理、災害情報等の基本的なものと、地震や台風、地滑り等の各論である。講師は中央で活躍している専門家や、地元の大学の研究者である。私の参加した研修では83名が受講した。1日目は昼食を挟んで6限目ま

で講義演習がある。1限は1時間である。2日目は6限目の講義演習のあと、「防災士資格取得試験」が1時間ある。意外と細かい点まで覚えておく必要がある。何点以上が合格か、合格率は何%かは公表されていないが、防災に携わっている人はもとより、一般の人にも大して難しい試験ではない。現に平成28年の1月末にNHKの地方ニュースで、輪島市の中学生16人が受験し、全員が合格した、と報じていた。9年前（平成19年）に能登半島地震があり、彼らも怖い目に遭ったからか、防災に熱心である。普通の授業では習っていない項目もあるが、きっと猛烈に勉強して身につけたのであると思う。

表-4 防災士取得のための研修プログラム

	1日目	2日目
1限目	地域の防災活動	気象災害
2限目	防災士の役割	近年の自然災害に学ぶ
3限目	避難と避難行動 避難所の開設と運営	地震の仕組みと被害
4限目	(講義並びに演習)	訓練と防災研修 ハザードマップと災害図上訓練
5限目	危機監理の基本	(講義並びに演習)
6限目	災害情報	土砂災害と対策
7限目	—	防災士資格取得試験

因に資格取得に要する料金は6万円余りであるが、町連から推薦（指示に近い）を受けて受験する場合は県や市が全額支払ってくれるので、自己負担は往復の交通費程度ですむ。これを取得したとしても、直ぐ忘れてしまうので、県や市が年に数回開いている研修に参加して適宜思い出さないと、役に立つ知識にはならないように思う。石川県では防災フォーラムとか津波フォーラム、防災リーダーフォローアップ研修、金沢市防災リーダー研修会などが年に数回開催される。先日は、防災の有名人である山村武彦氏の講演と、同氏が司会し県内の災害経験者がパネリストとなるパネルディスカッションから成る防災フォーラムが開催された。話が上手であったので、2時間があつという間にすんだ。対象は自主防災組織関係者、一般県民、市町村職員であるが、防災士を持っている人やこれから取ろうとする人が多かったそうである。

7. おわりに

「町会に入りたくない」、「町会に入ると役が廻ってくる」、「会社で十分疲れているのに、この上町会でも気を使わねばならないとは」、「何に使われるか分からない町会費を払いたくない」などの理由で、町会に入っていない人がいる。「町会が、あるいは町会連合会が機能しないと、どうなるか」を知らずに言っているのであろう。ゴミの箱やネットを出し入れしたり、その周りを掃除したりする仕事がある。市からの連絡や市への報告等もある。どこの市町村も市民係だけでは市民とのコミュニケーションを十分に取れないので、市民の側からも手伝いの手を伸ばし、市と市民一体となって、我々の日常生活を少しでも円滑に動かそうとしている。万一の災害のときにも自助、共助の一端を担うのが町会であり、町連である。

全然顔見知りでない人とのコミュニケーションは取りにくい。危機の時、名刺を交換して自己紹介している場合ではない。「あ、この人は自主防災会の人だから、このことを頼める」などの対応が直ぐにできる。町会に入っていない人とは気心が知れるのに時間がかかる。緊急の場合は一分一秒が貴重である。阪神・淡路大震

災時の淡路島である方が家の下敷きになって、消防団が瓦をどこからめくるかを思案していたとき、「あのおばあちゃんはいつも座敷に寝ていたので、この瓦からめくったら」と教えられ、おばあさんに一目散に近づけたと言う。これだけ親しくなるのもよし悪しであるとの思いもあるが、万一の危急存亡の時に効果が現れる。コミュニティの醸成には時間がかかるし繰り返しも必要である。一見無駄そうに見える町連活動を根気よくするしかないと思っている。